

## 説明的文章の読解

### 説明的文章の読解の基本

説明的文章の指導の場合、「何が」書かれているかを文章展開に即して的確に読み解くことが前提となります。すなわち、新しい知識や情報、筆者の考えがどのように表現されているかを文章中の言葉の働きに着目しながら確かめていくことが読解の基本となります。

学習者には、書き手の「発見」を理解、納得させるとともに、読みの行為を通して「創造的な発見」の体得という過程を踏ませることが重要となります

### 説明的文章の指導の重点

#### (1) 内容理解と要約に関する指導の重点

情報化社会の進展に伴って、情報の内容を的確かつ、すばやく要約する能力は、これまで以上に重要になってきています。説明的な文章と言え、即要約の指導というように受け止められるかもしれませんが、ともすれば機械的、形式的になされている面も否定できません。

要約には常に目的があり、文章全体を構造的に把握することが前提となります。要約する能力も、こうした目的を明確にし、構造的にとらえることを通して身につけていきます。構造的にとらえる場合には、文章の展開に即して段落相互の関係や文章表現の特徴を踏まえることが必要です。

このように考えると、要約の能力には、総合的な理解力が求められることになります。また、要約の能力は必要に応じて繰り返しなされることによって、より速く的確にできるようになります。

#### (2) 要旨に関する指導の重点

要旨をとらえる指導は読解学習の基本です。この場合に、文章の表現や展開に即して要旨をとらえることは言うまでもありません。

### 基本的な指導過程

#### (1) ということが書かれている文章かを考えながら読ませる

##### ① 授業者が文章の読み聞かせ（範読）をする

範読の問題点は、個々の読む力を培う機会を奪うことです。範読は、文章理解に機能を発揮しても未知の文章を自分の力で読み理解する読みの能力形成には寄与しません。

##### ② 学習者は聞き読みの学習活動を行う

読みの能力差の激しい学習者を目の前にして、低位にある学習者の学習時間を保証したいと思っても、その後に予定している学習指導のことを考えると、そうもできないというのが現状です。しかし、これでは高位にある学習者はますます能力を高め、低位にある学習者は低いままの状態に置かれてしまいます。

##### ③ 授業者と学習者が一緒に一斉に読んでいく

まずは、学習者一人一人に読める限り読ませなければなりません。学習時間を保証しなければなりません。そこで斉読を取り入れます。

#### (2) ということが書かれている文章か1、2文でまとめさせる

仮要旨をとらえる作業です。学習経験がなく、こういった学習なのか理解できない学習者がいる場合には、文章の内容理解に抵抗のない文章で理解させるようにします。中学1年生であれば小学4、5年生の既習の文章を使います。文章内容の理解に抵抗がないので、学習に集中することができます。

#### (3) 書かれていることについて考えたことを2、3文でまとめさせる

とらえた仮要旨を中心に事物や事件など事柄について考えさせ、まとめさせます。このときの考える手がかりとなる情報は、文章に盛られた情報と学習者が所有している情報になります。